



市長 からの 手紙

43 科学者の心情

先日、日本のロケット開発に携わり、小惑星探査機「はやぶさ」の開発に関わった JAXA 名誉教授・的川泰宣まとかわ やすのりさんの講演を聴く機会がありました。

講演の中で、世界のロケット開発史上最も有名な人物、フォン・ブラウン博士の人物像に触れた部分がありました。私は子どものころ、ロケットや飛行機に関心があり、フォン・ブラウンという名前には、実に懐かしい響きがありました。

フォン・ブラウン博士はナチスドイツが開発した世界最初の液体燃料弾道ミサイル（兵器としてのロケット）である「V2」を研究開発した科学者です。彼は、ナチスドイツが連合国に降伏した後、米国に渡り、アポロ計画で人類を月に送った「サターンロケット」の

開発に中心的役割を果たしました。

そのフォン・ブラウン博士が来日した際に、的川先生が「ナチスドイツで兵器としてのロケット開発に従事していたことについて、現在どう思っているか」という趣旨の意地悪な質問をしたところ、即座に「自分は、悪魔と取引をしてでも火星に行くためのロケットを造りたかった」という言葉が返って来たそうです。

一方、原子爆弾開発計画であるマンハッタン計画の責任者で「原爆の父」と呼ばれたオッペンハイマー博士は、広島、長崎の惨状をもたらした自分たちの研究開発を、後に大変悔いていたそうです。

科学技術を兵器に使うか、人類に役立つ分野で使うかは、科学者の責任というよりは政治の責任であると言えるでしょう。しかしながら、自分の研究成果によって大勢の人の命が奪われたことに対する悔いの念を感じることもない「強い意志」に対しては、個人的には、不安を感じます。

現代の科学技術の最先端を走っている研究者たちがオッペンハイマー博士のような心情を持っていることを祈るのみです。

川越市長 川合善明

未来に向けて⑧

川越みらい会議を開催しました

政策企画課 224-5503

「自分が知らなかった川越を知ることができてよかった」「川越のことを考えるきっかけになりました」「川越も捨てたものじゃないと思った」。

これは、川越みらい会議に参加した皆さんの感想です。川越みらい会議は、平成28年度から始まる第四次川越市総合計画の策定過程に市民の皆さんの声を反映させるために開いた会議です。保健・医療・福祉や教育・文化・スポーツ、都市基盤などの分野ごとに分かれて、無作為抽出で選ばれた市民の方々が「ずっと住み続けたいまちをめざして」をテーマに話し合いました。初対面同士にもかかわらず、川越の未来について熱く語っていただいたこの会議の結果は、市ホームページでお知らせします。

また、通勤者に行った「まちかどインタビュー」、女性の声を聴く「おしゃべりカフェ」、市内の大学に通う若者の声を聴く「大学生インタビュー」など、多くの方の声を聴く取り組みを進めています。

いただいた声の多くは、「自分たちが住む、あるいは、子どもたちに残していくまちの将来は、自分たちで真剣に考える」という当事者意識の高いものでした。

市では、こうした皆さんの声を次の総合計画に生かしていきます。



みらい会議
み続けたいまちをめざして



新河岸川沿いに全周約1,800mの寺尾調節池があります。10年ほど前に治水のために整備されたもので、今では野鳥が飛来し、カワセミも観察されるなど多種多様な動植物が生息し、自然環境がとても豊かになりました。そのため、近くの小学校では自然観察の場として活用し、地域の方は早朝からバードウォッチングやウォーキングを楽しむなど、子どもからお年寄りまで、たくさんの方々が利用し、交流の場となっています。

地元、寺尾地区の4自治会では年に2回「ごみゼロ運動」に合わせ、調節池を愛する会やボランティアと一緒に快適な環境を保つため、清掃活動をしています。また、台風など大雨の後には、PTAや老人クラブの協力も得て、流れ着いたごみの収集も行っています。

このように寺尾地区では、住宅地の中の自然豊かなオアシスを守るために地域が一体となって美化活動に取り組んでいます。



ごみ処理とぴつくす 収集時間のズレにご注意を！

資源循環推進課 239-6267

「段ボールは収集されたのに、雑がみだけ残っている」「いつもと収集時間が違う」という問い合わせを受けることがあります。

分別していただいた資源を効率よくリサイクルするため、「新聞紙・段ボール・紙パック・雑がみ」と「びん・かん・ペットボトル」は、品目ごとに異なる車両で収集を行う場合があります。そのため、収集時間にズレが生じることがあります。集積所に雑がみが残っているのを見て後から段ボールを出したら、段ボールの収集は終わっていた、などということがないようにご注意ください。

収集時間は交通事情等で前後することがあります。集積所には、収集日の朝8時までには全てのものを出し終えるよう、ご協力をお願いします。



市民とともにつくる

安全で安心なまち川越

防災危機管理課 224-5554

家族の安否確認について

時間帯によっては家族が別々の場所で被災するごことが考えられます。すぐに会いに行きたいけれど、余震、落下物等の二次災害の危険があり、交通も混乱している。電話は何度かけてもつながらない。

そんな時に伝言を残したり、確認したりできるのが「災害用伝言サービス」です。利用できるサービスは4種類。被災のあった自宅の固定電話番号を使用する「災害用伝言ダイヤル(171)」、携帯電話各

社のモバイルサイトトップからアクセスする「災害用伝言板」、インターネットを利用する「災害用伝言板(web171)」、スマートフォン等を利用して音声ファイルやメッセージを送る「災害用音声お届けサービス」があります。

災害時は、冷静に行動するために、気持ちを落ち着かせることが大切です。家族の無事を確認することは何よりも心の支えになります。

災害用伝言サービスは、災害時以外の毎月1日と15日、正月三が日等に体験利用することができま。ぜひ一度、試してみてください。



ごみ出しの強い味方 「川越市ごみ分別アプリ」 配信中！

収集日カレンダー、分別辞典など、ごみ出し情報を提供するスマートフォン向けアプリです。アプリは無料ですが、インターネット接続などにかかる費用は利用者の負担となります。

● iPhone 版



● Android 版

